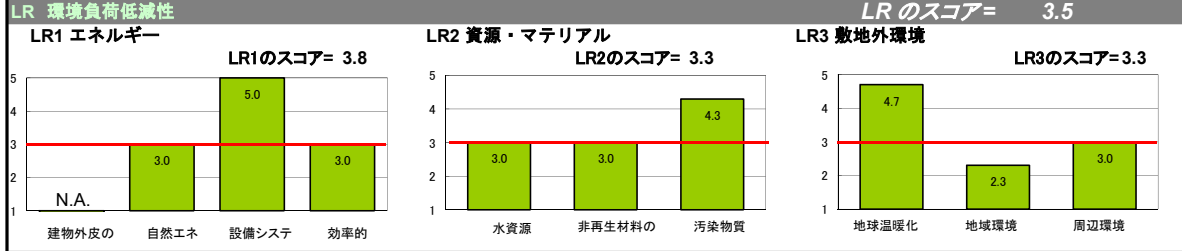
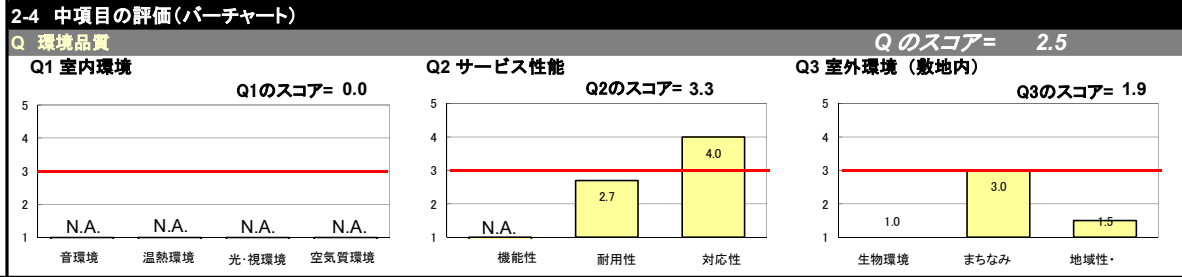
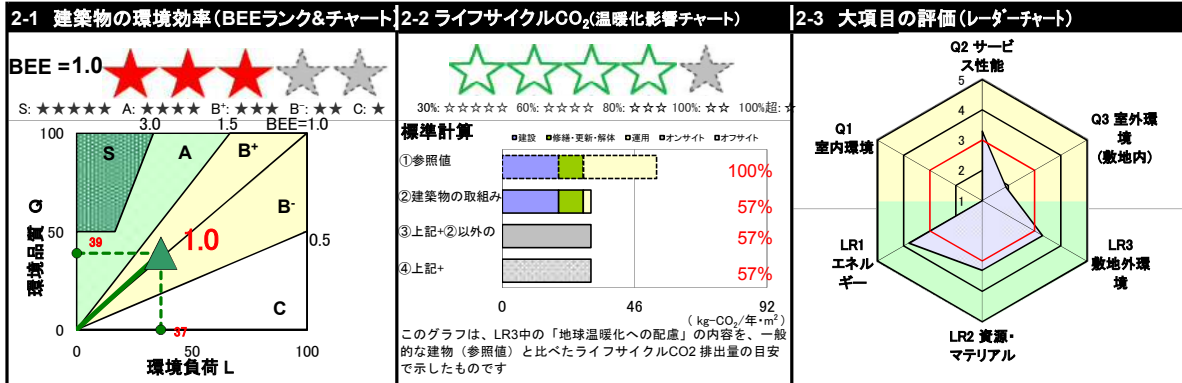
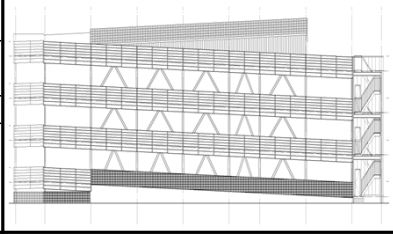


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	三菱自動車工業株式会社 第二電	階数	地上3階
建設地	愛知県岡崎市橋目町字中新切1番	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	0 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年11月 予定	評価の実施日	2017年6月13日
敷地面積	3,363 m ²	作成者	高橋 一仁
建築面積	1,698 m ²	確認日	2017年6月14日
延床面積	5,022 m ²	確認者	土岡 央



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.7</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.2</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						建物全体・共用部	建物全体・共用部	居住・宿泊部分	居住・宿泊部分	全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体			
Q 建築物の環境品質													2.5	
Q1 室内環境													-	
1 音環境													-	
1.1 室内騒音レベル													-	
1.2 遮音													-	
1 開口部遮音性能													-	
2 界壁遮音性能													-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)													-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)													-	
1.3 吸音													-	
2 温熱環境													-	
2.1 室温制御													-	
1 室温													-	
2 外皮性能													-	
3 ソーン別制御性													-	
2.2 湿度制御													-	
2.3 空調方式													-	
3 光・視環境													-	
3.1 昼光利用													-	
1 昼光率													-	
2 方位別開口													-	
3 昼光利用設備													-	
3.2 グレア対策													-	
1 昼光制御													-	
3.3 照度													-	
3.4 照明制御													-	
4 空気質環境													-	
4.1 発生源対策													-	
1 化学汚染物質													-	
4.2 換気													-	
1 換気量													-	
2 自然換気性能													-	
3 取り入れ外気への配慮													-	
4.3 運用管理													-	
1 CO ₂ の監視													-	
2 喫煙の制御													-	
Q2 サービス性能													3.3	
1 機能性													-	
1.1 機能性・使いやすさ													-	
1 広さ・収納性													-	
2 高度情報通信設備対応													-	
3 バリアフリー計画													-	
1.2 心理性・快適性													-	
1 広さ感・景観 (天井高)													-	
2 リフレッシュスペース													-	
3 内装計画													-	
1.3 維持管理													-	
1 維持管理に配慮した設計													-	
2 維持管理用機能の確保													-	
2 耐用性・信頼性													2.7	
2.1 耐震・免震・制震・制振													0.52	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)													3.0	
2 免震・制震・制振性能													0.48	
2.2 部品・部材の耐用年数													3.0	
1 躯体材料の耐用年数													0.20	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔													2.5	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔													0.33	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔													3.0	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔													0.50	
6 主要設備機器の更新必要間隔													2.0	
2.4 信頼性													0.50	
1 空調・換気設備													2.6	
2 給排水・衛生設備													0.19	
3 電気設備													2.0	
4 機械・配管支持方法													0.33	
5 通信・情報設備													3.0	
													0.33	

3 対応性・更新性				4.0	0.48				4.0
3.1 空間のゆとり				2.8	0.31				
1 階高のゆとり			階高3.3m	2.0	0.60				
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率 0.11	4.0	0.40				
3.2 荷重のゆとり			3750N/m ²	4.0	0.31				
3.3 設備の更新性				5.0	0.38				
1 空調配管の更新性		②		-	-				
2 給排水管の更新性			露出配管のため	5.0	0.60				
3 電気配線の更新性			露出配管のため	5.0	0.40				
4 通信配線の更新性				-	-				
5 設備機器の更新性				-	-				
6 バックアップスペースの確保				-	-				
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57				1.9
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30				1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40				3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				1.5	0.30				1.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		1.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性									3.5
LR1 エネルギー					0.40				3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制					-				-
2 自然エネルギー利用				3.0	0.28				3.0
3 設備システムの高効率化			LED照明の採用	5.0	0.43				5.0
4 効率的運用				3.0	0.29				3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00				
4.1 モニタリング				3.0	0.50				
4.2 運用管理体制				3.0	0.50				
集合住宅の評価					-				
4.1 モニタリング					-				
4.2 運用管理体制					-				
LR2 資源・マテリアル					0.30				3.3
1 水資源保護				3.0	0.15				3.0
1.1 節水					-				-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	1.00				
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	1.00				
2 雑排水等利用システム導入の有無					-				-
2 非再生性資源の使用量削減				3.0	0.63				3.0
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.21				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	1.0	0.21				
2.5 持続可能な森林から産出された木材					-				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	建物がほぼ躯体なので分別が容易	5.0	0.25				
3 汚染物質含有材料の使用回避				4.3	0.22				4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避				5.0	0.68				
1 消火剤					-				-
2 発泡剤(断熱材等)			発泡断熱材の使用なし	5.0	1.00				
3 冷媒					-				-
LR3 敷地外環境					0.30				3.3
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2 概算値57%	4.7	0.33				4.7
2 地域環境への配慮				2.3	0.33				2.3
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.2	0.25				
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25				
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25				
3 交通負荷抑制		独自		2.0	0.25				
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25				
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33				3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40				
1 騒音		独自		3.0	1.00				
2 振動		独自			-				-
3 悪臭					-				-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40				
1 風害の抑制				3.0	0.70				
2 砂塵の抑制					-				-
3 日照障害の抑制				3.0	0.30				
3.3 光害の抑制				3.0	0.20				
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70				
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30				

重点項目スコアシート

実施設計段階

■ 使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

三菱自動車工業株式会社 第二電波棟西側立体駐車場

■ 評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.7
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.7	0.10	
② 資源の有効活用				3.2
Q2-2	耐震性・信頼性	2.7	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.0	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■ 重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	照明器具にLED照明を採用することで、二酸化炭素排出低減につなげている。
Q1 室内環境	対象外
Q2 サービス性能	露出配管により、高いメンテナンス性を確保。
Q3 室外環境(敷地内)	周辺既存建物との距離・高さの調和を取り、公共空間からは見えない位置・高さとしている。
LR1 エネルギー	照明設備にLED照明を採用することで、エネルギー消費低減に努めている。
LR2 資源・マテリアル	建物がほぼ躯体のため、容易に分別が可能。発砲断熱材の使用なし。
LR3 敷地外環境	外構アスファルト舗装は、透水性舗装としている。
その他	